

付属資料10：中東

中東の特徴@2050年

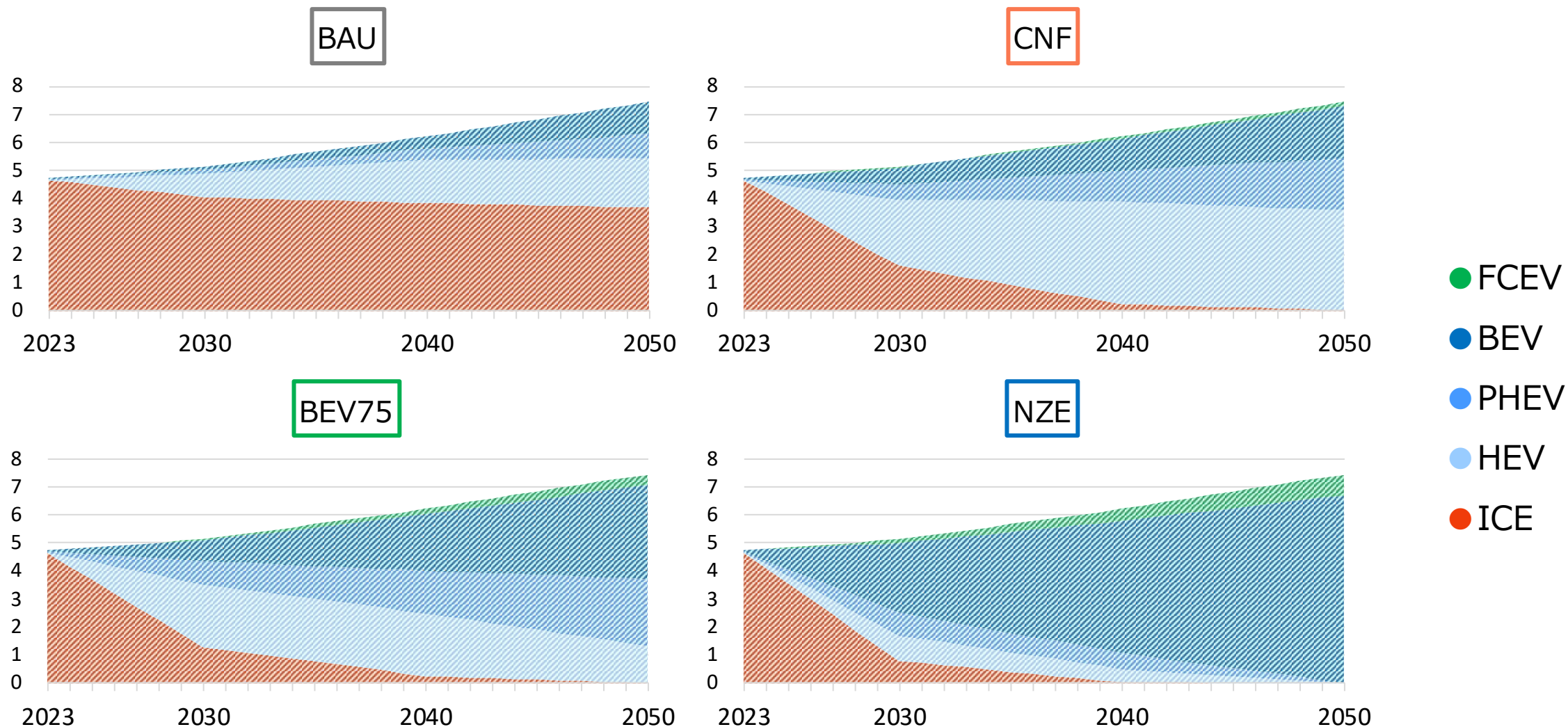
シナリオ名	特徴		2020年比CO ₂ 排出量
全シナリオ共通	市場動向	・ 全車種で新車販売・保有台数ともに大幅増	
	電源構成	・ クリーンエネルギー+CCS比率は49%	
CNF	電動車の普及	・ 新車販売構成は、乗用車でBEV・FCEVが25%となることを含め、電動化シェアが四輪で95%、二輪で80% ・ 保有構成はBEV・FCEVシェアが四輪で23%、二輪で73%	35%減 (CNF+51%減)
	燃料構成	・ CN燃料(合成燃料・バイオ燃料)+電力+水素で47% ・ CN燃料は2023年時点の液体燃料の27%(CNF+45%)	
BEV75	電動車の普及	・ 新車販売構成は四輪でBEV・FCEVシェアが54%、二輪で88% ・ 保有構成はBEV・FCEV シェアが四輪で42%、二輪で81%	44%減
	燃料構成	・ CN燃料+電力+水素で61% ・ CN燃料は2023年時点の液体燃料の19%	
NZE	電動車の普及	・ 新車販売構成は全車種でBEV・FCEVシェアが100% ・ 保有構成はBEV・FCEVシェアが四輪87%、二輪で100%	51%減
	燃料構成	・ バイオ燃料+電力+水素で76% (合成燃料は0想定) ・ バイオ燃料は2023年時点の液体燃料の1%	

* CNF+ : 合成燃料供給量を2050年のSAFの1/2程度をFT合成で製造と仮定した場合で、CN燃料供給量はCNFの1.2倍程度。増加分を、電源脱炭素化が容易でないアフリカ、中東、インド、ASEANにより多く割り当てたシナリオ

CO₂排出量は2020年比で35%減～51%減
(一部 IPCC 第3作業部会-第6次評価報告書 1.5℃シナリオの削減幅42～68%減と同水準)

中東の新車販売構成（乗用車）

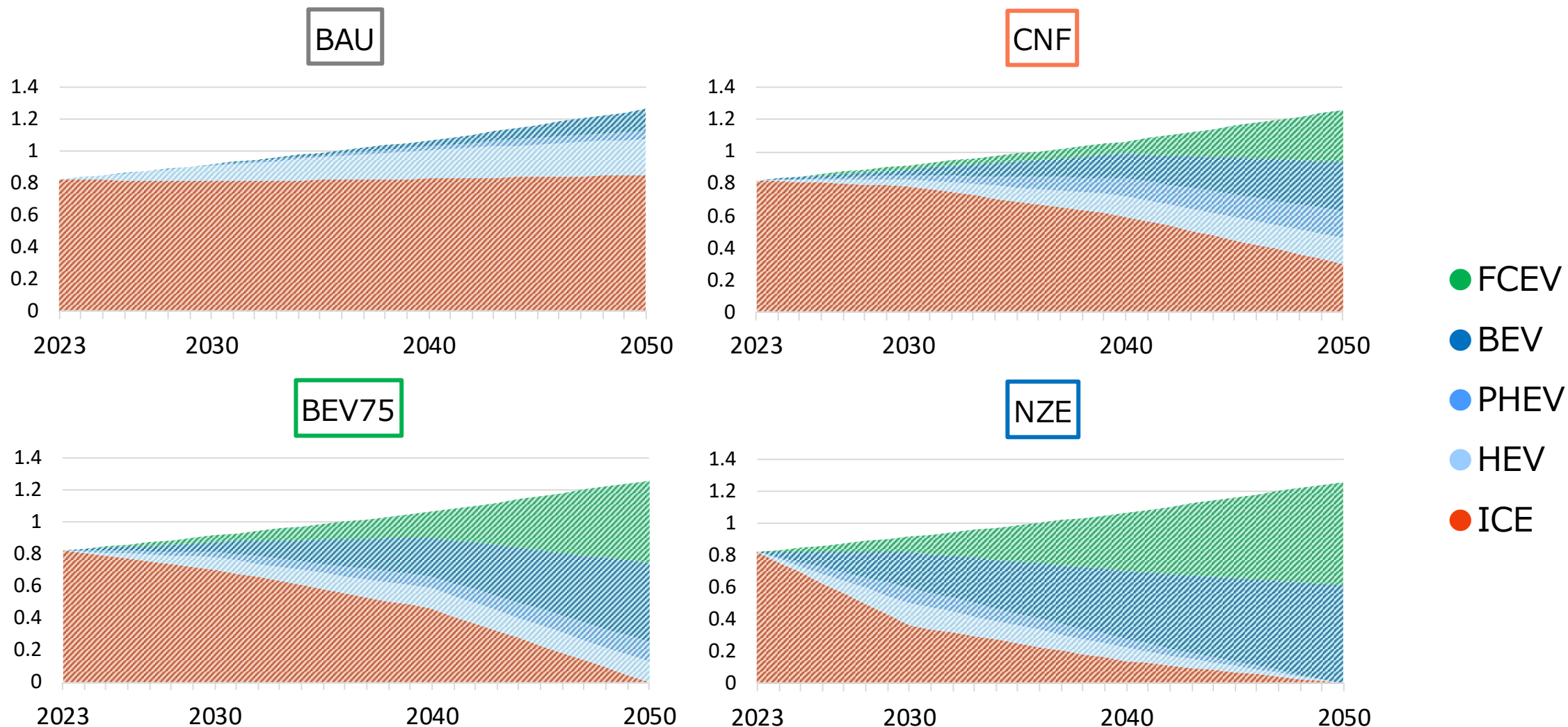
（単位：百万台）



* 実績値はEDMC推計、将来値は新車販売台数の合計はEDMC推計、パワートレインの構成は自工会のシナリオを基にEDMC推計

中東の新車販売構成（トラック・バス）

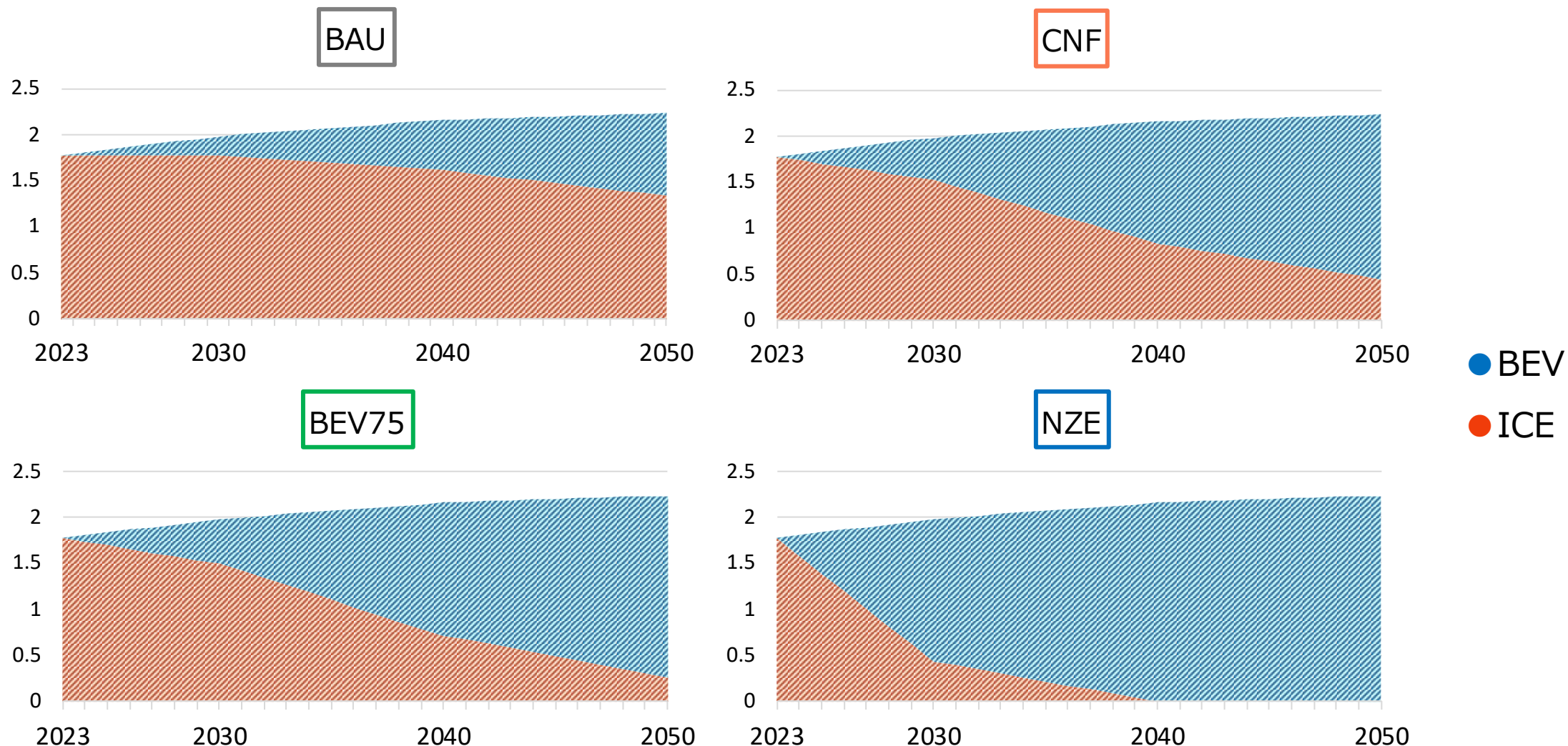
（単位：百万台）



* 実績値はEDMC推計、将来値は新車販売台数の合計はEDMC推計、パワートレインの構成は自工会のシナリオを基にEDMC推計

中東の新車販売構成（二輪車）

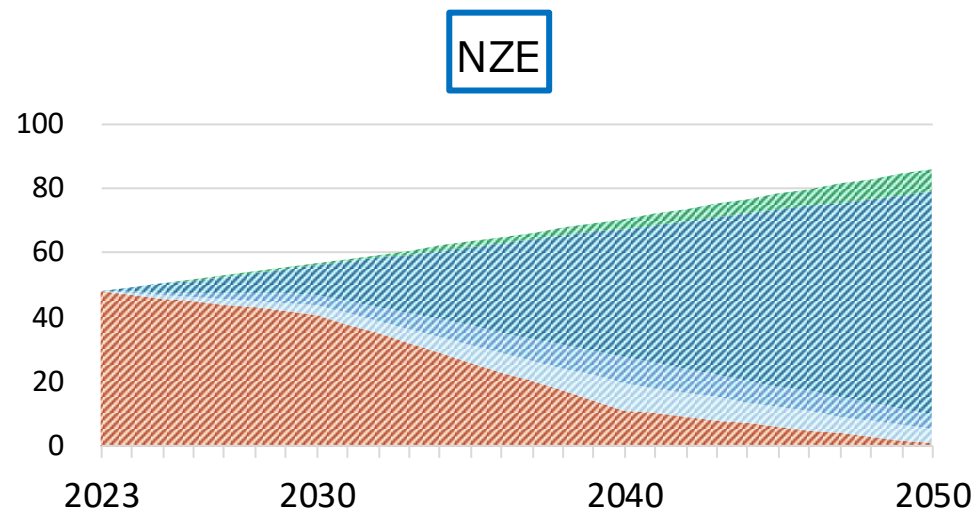
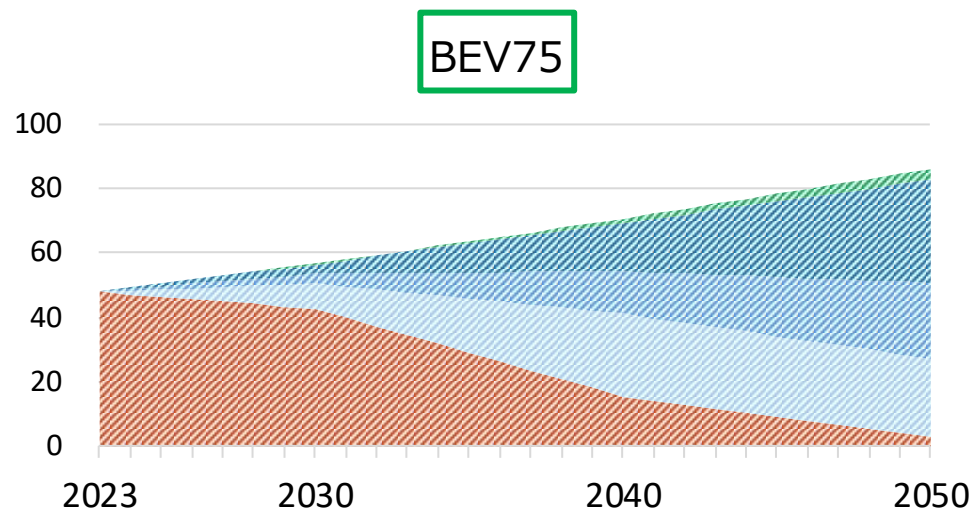
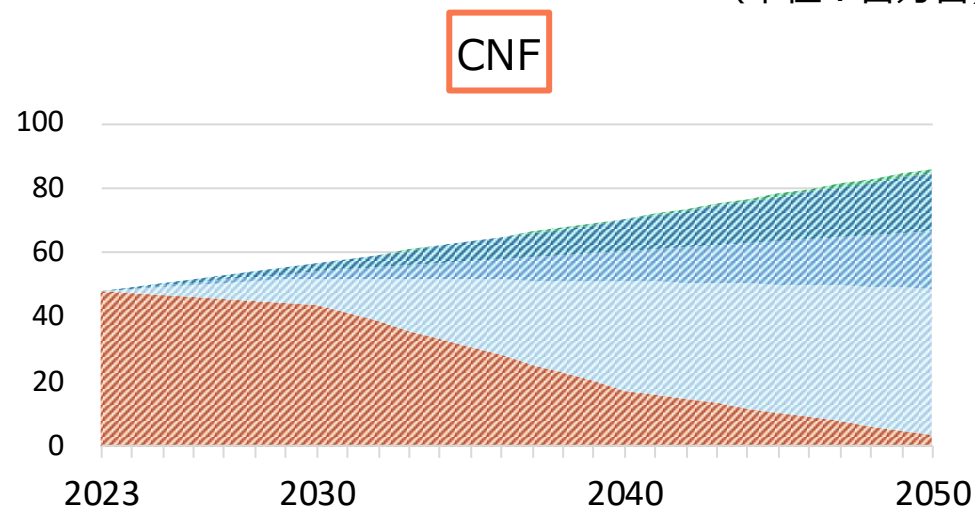
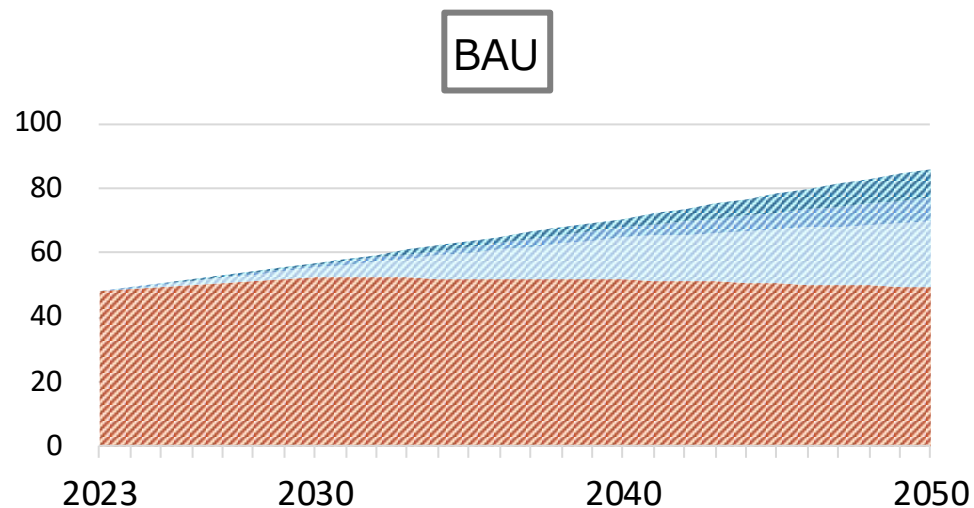
（単位：百万台）



* 実績値はEDMC推計、将来値は新車販売台数の合計はEDMC推計、パワートレインの構成は自工会のシナリオを基にEDMC推計

中東の保有構成（乗用車）

（単位：百万台）

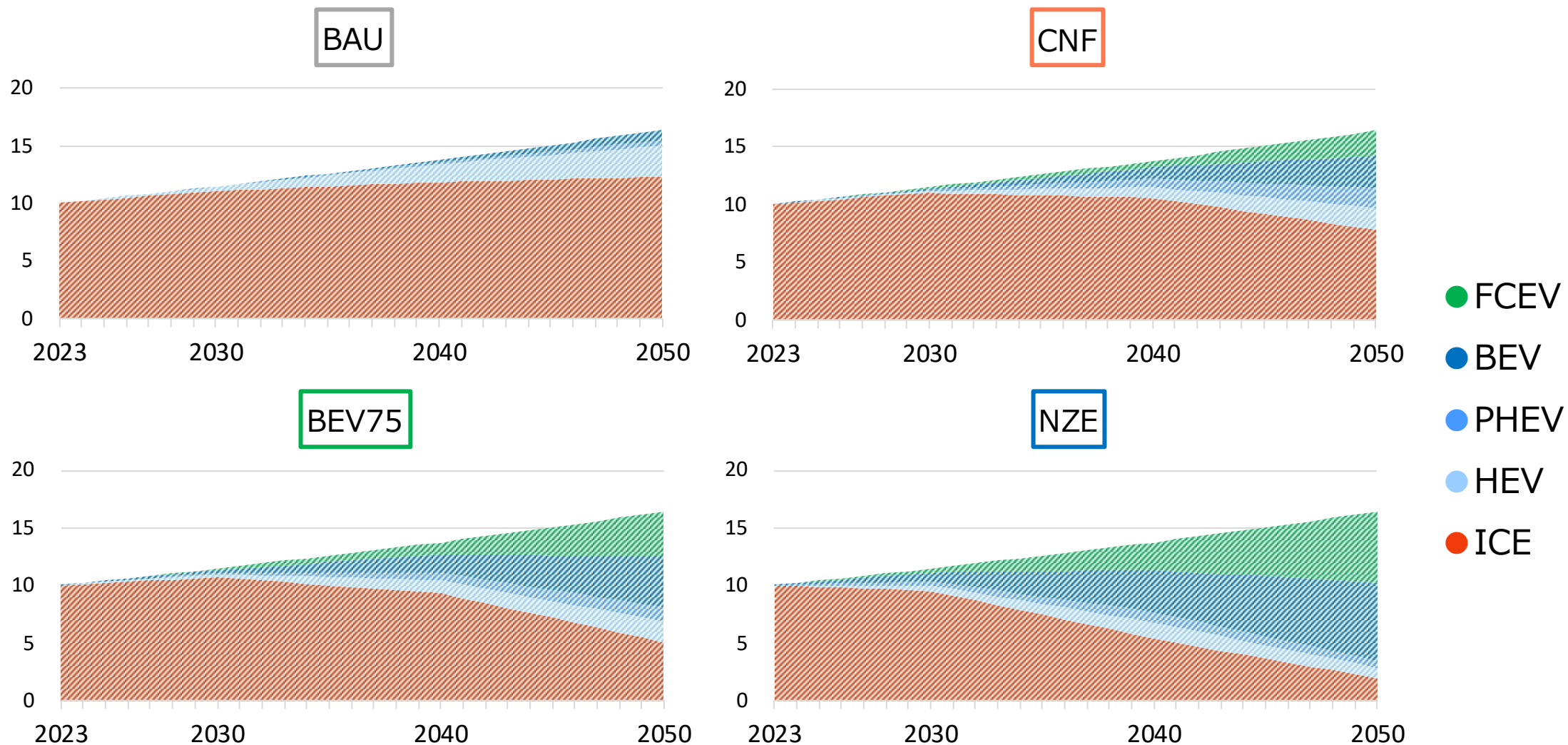


- FCEV
- BEV
- PHEV
- HEV
- ICE

* 実績値はEDMC/エネルギー・経済統計要覧2026年版を参照（前回分析(2022年版)はEDMC/エネルギー・経済統計要覧2022年版を参照）
将来値は、保有台数の合計は[「IEEJ Outlook 2026」\(2025年発表\)](#)、パワートレインの構成は自工会のシナリオを基に推計

中東の保有構成（トラック・バス）

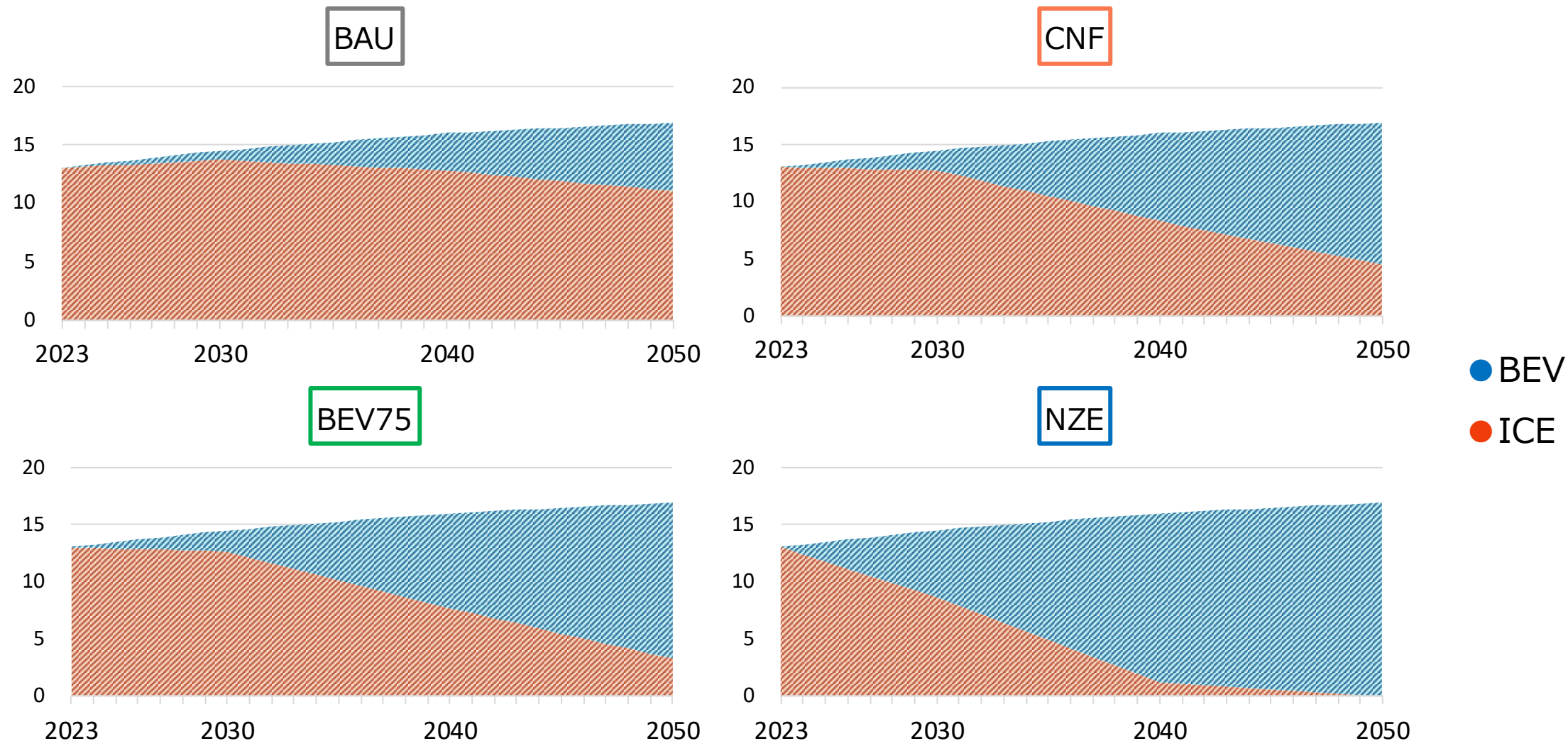
(単位：百万台)



* 実績値はEDMC/エネルギー・経済統計要覧2026年版を参照 (前回分析(2022年版)はEDMC/エネルギー・経済統計要覧2022年版を参照)
将来値は、保有台数の合計は[\[IEEJ Outlook 2026\]\(2025年発表\)](#)、パワートレインの構成は自工会のシナリオを基に推計

中東の保有構成（二輪車）

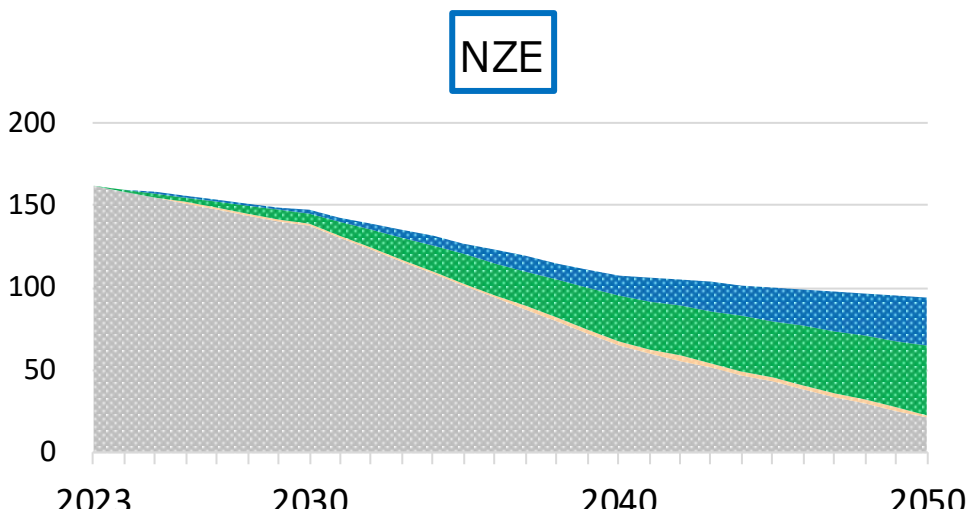
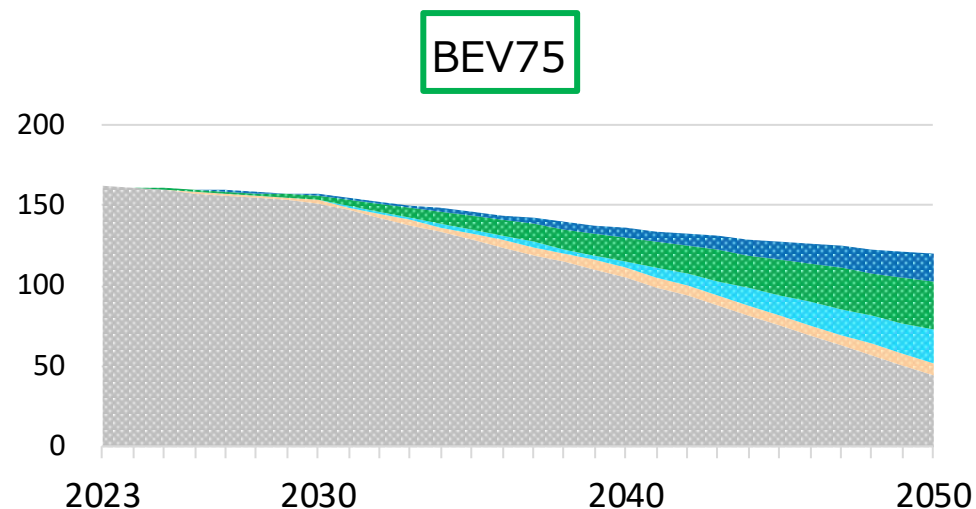
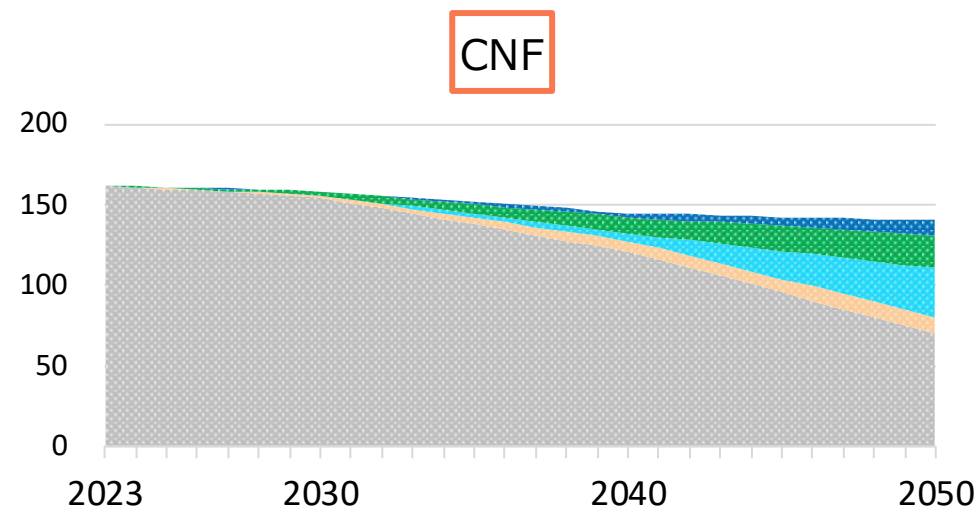
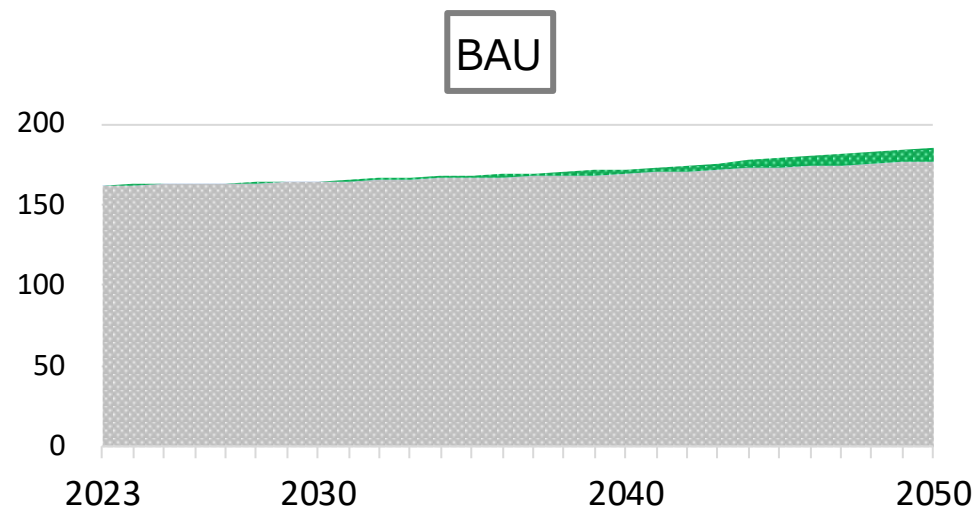
（単位：百万台）



* 実績値は[The IRF World Road Statistics](#)および各国統計等よりEDMC推計、将来値は保有台数の合計はEDMC推計、パワートレインの構成は自工会のシナリオを基にEDMC推計

中東の燃料構成（合計）

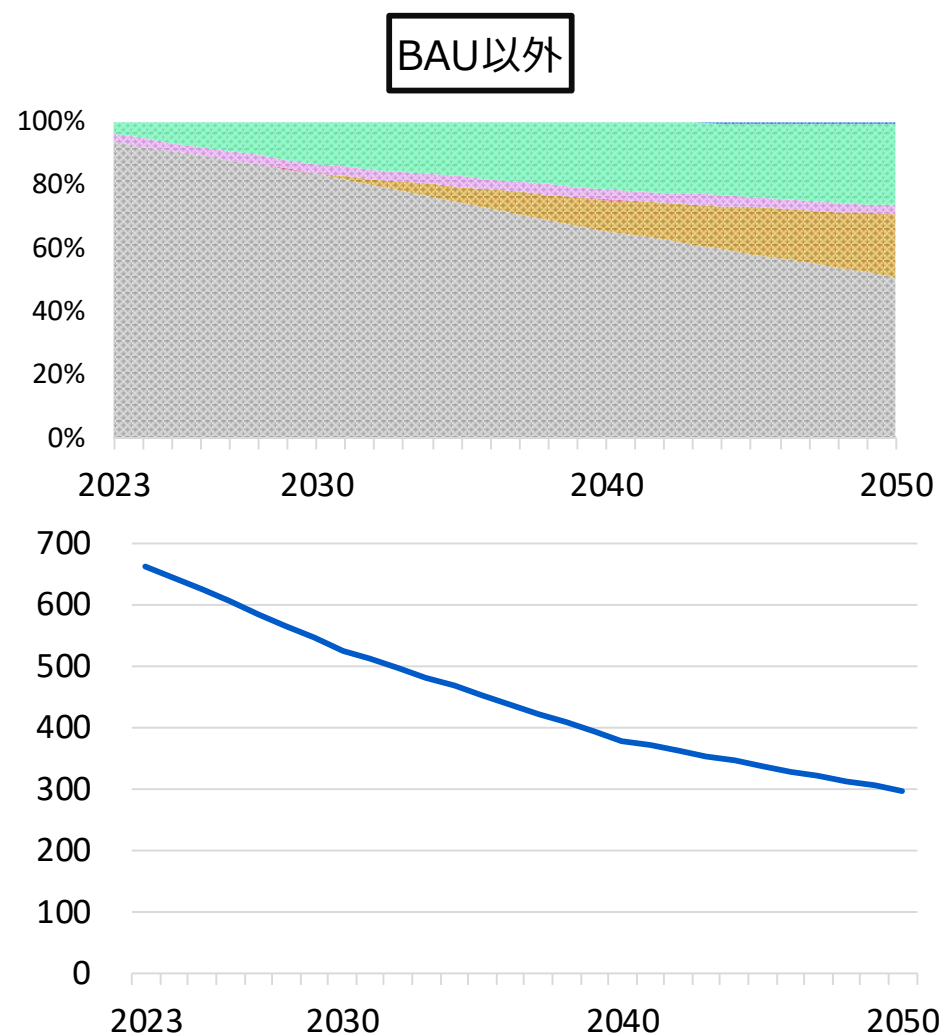
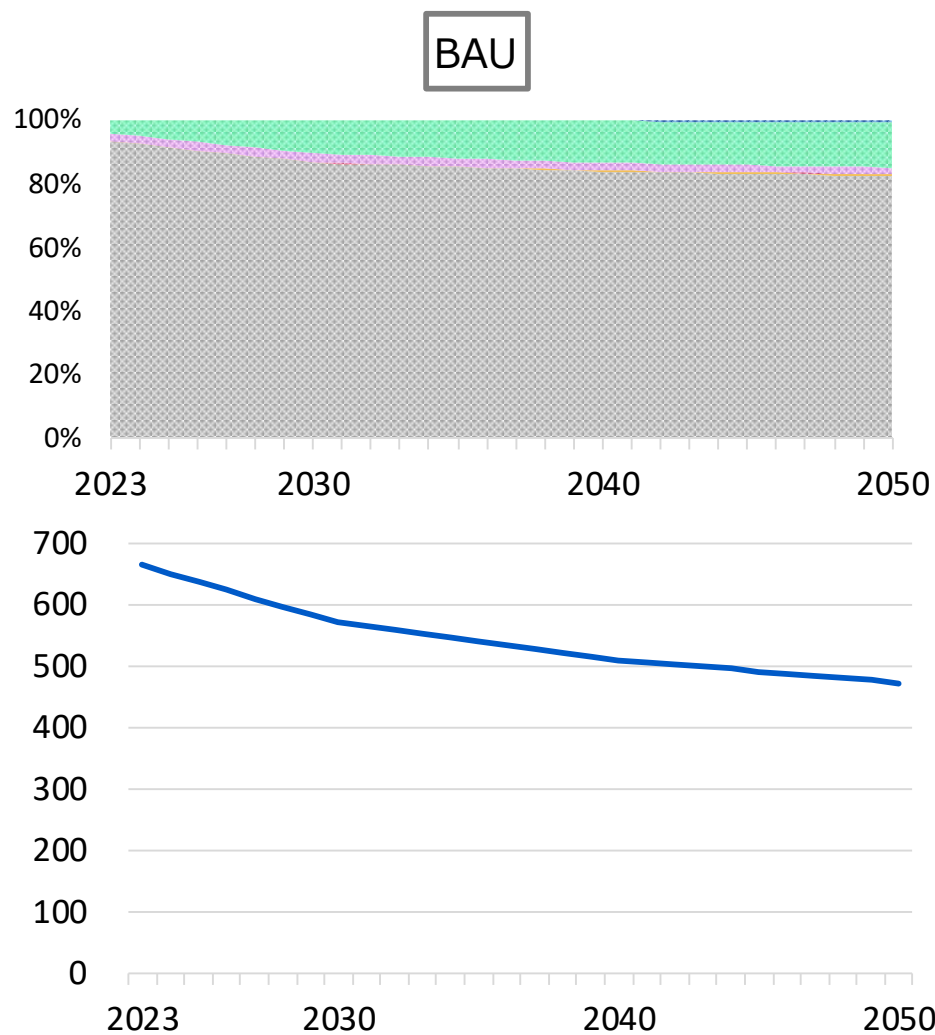
（単位：Mtoe）



- 水素
- 電力
- 合成燃料
- バイオ燃料
- 石油

* 実績値はEDMC推計、将来値は自工会のシナリオを基にEDMC推計

中東の電源構成

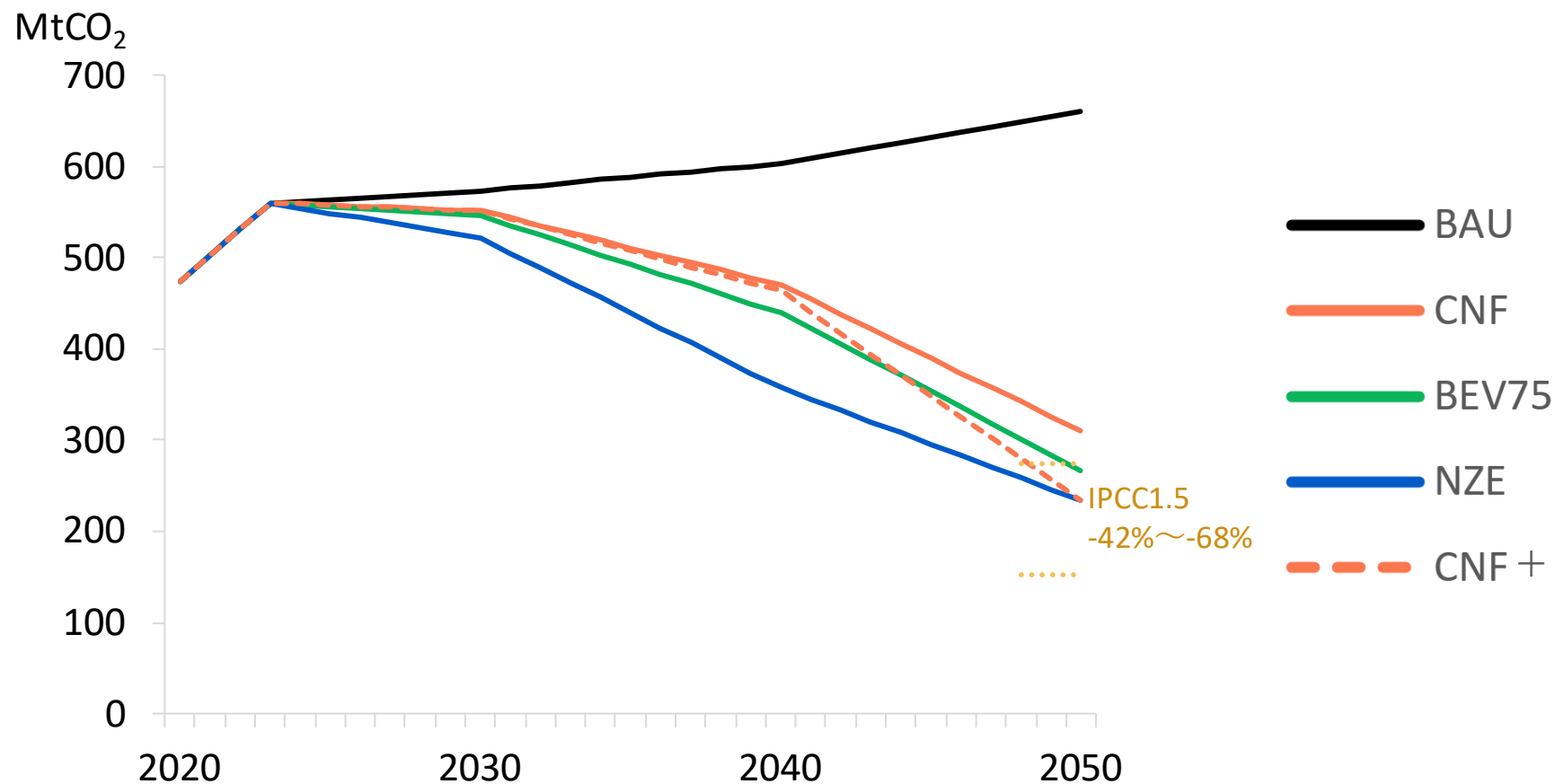


- 水素
- 再生エネルギー
- 原子力
- バイオマス+CCS*1
- バイオマス
- 化石燃料+CCS*1
- 化石燃料

* 実績値は[IEA World Energy Balances](#)、将来値は「[IEEJ Outlook 2026](#)」(2025年発表)を基に推計

*1 CCS(Carbon Capture and Storage)は、発電所や工場等から排出されるCO2を回収し、地中等へ貯留することでCO2排出量削減に活用する技術

中東のCO₂排出量



*「IPCC1.5 -42%~-68%」は、IPCC 第3作業部会-第6次評価報告書 Chapter10で示された、世界の気温上昇を1.5℃以内または限られた超過に抑えるシナリオにおいて、世界の運輸部門のCO₂排出量が、2050年には2020年比で概ね42～68%減少するシナリオ(4分位範囲)のこと。この範囲内もしくは下回っている場合は、IPCC1.5℃目標に整合的と判断できる水準と言える

CO₂排出量は2020年比で35%減～51%減
(一部 IPCC 第3作業部会-第6次評価報告書1.5℃シナリオの削減幅42～68%減と同水準)